

# あきる台たいむす

## Akirudai Times



さつき薬局

秋川店

0425-58-8416

(あきる台病院すぐ前)

介護用品・一般薬品・保険調剤

月・火・水・木・金 9:00~18:30

土 9:00~13:00

※日曜・祭日はお休みです

発行所



医療法人財団 暁

あきる台病院

〒197-0804

東京都あきる野市秋川6-5-1

TEL (042) 559-5761

FAX (042) 559-8054

2013年(平成25年) 1月 1日

第20号

発行人: あきる台病院(医療福祉相談室)

### 新年によせて

院長よりご挨拶



新年おめでとうございます。皆様には良い年を迎えられたことと存じます。さて、昨年は心あたたまる結婚式のお手伝いをする事ができました。全国からお褒めの言葉をたくさんいただきました。山口・大阪からも、そして新潟・福島等々行き先でも直接お褒めの言葉を頂き驚きました。

あきる台病院は以前は“あきる台病院”“あひる台病院”“あきるの台病院”等々間違われることがありましたが、これで全国区となり間違われ

ることがなくなることでしょ。さてさて、今年はどうでしょう。皆さんの心をひとつにまとめて出来る事があればいいのですが。話は変わりますが、私事で恐縮ですが、昨年60歳の現況に安住してついつい保守的になりがちな日常の事を振り返り、そしてまた、たまたまチャンスがありましたので手習いを始めたわけで、幾何学的な方向感覚や解剖器の位置関係など頭が大混乱しました。しかし指導してくれた人達の経験から得た大切なノウハウを伝授されたおかげでうれしくおかげが続ける事ができています。人生の進歩です。そしてその私の個人的経験は病院組織にもそのまま当てはまると思っています。

組織は常に進んで行かなければなりません。つねに手習いながらアクティブでなくてはなりません。今年新しい

新年おめでとうございます。本年も宜しく願い致します。総集編のような番組があり、サッカーを観ました。あの狼の群のような各選手の位置取りやパスワークなどのチームプレーには観る度に感嘆させられます。一方スーパーゴール、スパーセーブなどの個人技、名人芸も間違いなくサッカーの醍醐味であり、存分に堪能致しました。

私たちの業界でも「チーム医療」「連携」などと言われ、医療「一連携」などと言われ、実践されているからこそ上手く機能しています。

チームの効用は多岐にわたりますが、その個人にとつての意味、実体は、「専門分化」と「自他の尊重」だと考えます。その上で連携を密にする事によって、点が線へ、線が面へ、面が空間へ、と、

### 理事長よりご挨拶

### あきるグループホームボランティア募集中

あきるグループホームでは、お年寄りの方々と楽しく過ごしていただけるボランティアを募集しています。  
※詳しくは医療福祉相談室まで

院長 伊藤 正秀

院内は風通しを良くして、各種委員会に皆さんで参加して自分の考えを述べて下さい。この誌上をおかりして新年1番の報告として、あきる台病院ソフトボールチームの誕生を報告いたします。

正しく次元を異にする効用が得られる訳です。そのため、チーム組織は、同数のバラバラな個人に比し飛躍的な力を発揮します。

しかし、積み上げられた石や積み木、組み上げられた櫓や足場は、たった一つの部材の欠陥により全体が崩壊する危険も孕んでいます。(もちろん、それを防ぐような相補もチームの効用なのですが)つまり、逆説的なようですが、チームとは、名人芸とまでは行かずとも、各人が自信を持ち仲間にも強く信頼されるような専門家になること、そのための研鑽を各人が自発的に行うことが前提となつている訳です。サッカーでも各選手のレベルが高くないとチームワーク自体が成立し得ないのと同じことです。自分の役割が十分に果たせなかったり、チームメイトの要求に応えられないようでは、チーム以前の問題なのです。

各人が自分の分野については他の誰にも負けない専門家になること、そしてその仕事について全面的に責任を持つこと。これがチーム存立の前提条件です。厳しいようですが、全員がそれぞれ名人芸をもつて一匹狼として生きていくよりは、つと無理がなく、点が線、面を経て空間へと広がるのがチームというものです。

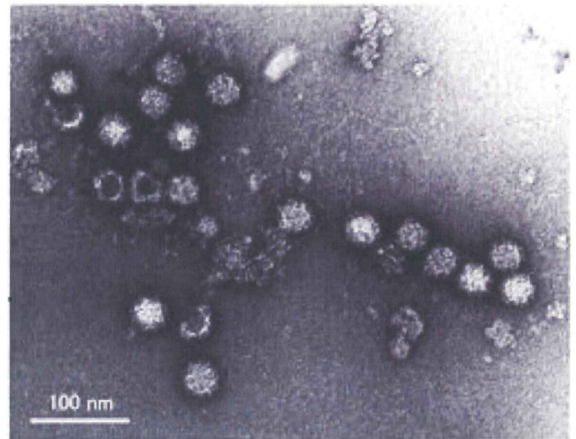
今年も、チームに生きる職業人としてお互いに頑張ってくださいませ。最後になりませんが、今年が皆様にとって良い年でありますように。

理事長 井村洋一

## ノロウイルスの予防と対策

ノロウイルスによる胃腸炎が流行しています。ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していますが、特に冬季の12月～翌年の1月に発生のピークになる傾向があります。よって、インフルエンザ同様、予防していくことが重要です。以下、厚生労働省のホームページを引用の上、ノロウイルス予防を中心にまとめてみました。

最初にノロウイルスは手指や食品などを介して経口で感染し、ヒトの腸管で増殖（患者のふん便や吐ぶつには大量のウイルスが排出）し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。発熱は軽度です。通常、これら症状が1～2日続いた後、治癒し、後遺症もありません。また、感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。潜伏期間（感染から発症までの時間）は24～48時間とされています。健康な方は軽症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐ぶつを誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。ノロウイルスについてはワクチンがなく、また治療は輸液などの対症療法に限られます。



（写真：ノロウイルス）

(1) 食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。

→手洗いは調理を行う前、食事の前、トイレに行った後、下痢等の患者の汚物処理やオムツ交換等を行った後（手袋をして直接触れないようにしても）には必ず行いましょう。常に爪を短く切って、指輪等はずし、石けんを十分泡立て、ブラシなどを使用して手指を洗浄します。すすぎは温水による流水で十分に行い、清潔なタオル又はペーパータオルで拭きます。石けん自体にはノロウイルスを直接失活化する効果はありませんが、手の脂肪等の汚れを落とすことによりウイルスを手指から剥がれやすくする効果があります。

(2) 下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。

(3) 胃腸炎患者に接する方は、患者のふん便や吐ぶつを適切に処理し、感染を広げないようにしましょう。

→特に、子どもやお年寄りなど抵抗力の弱い方は、加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱して食べましょう。食品の中心温度85℃以上で1分以上の加熱を行えば、感染性はなくなるとされています。

(4) 調理器具等は使用後に洗浄、殺菌しましょう。

→ノロウイルスの失活化には、エタノールや逆性石鹼はあまり効果がありません。ノロウイルスを完全に失活化する方法には、次亜塩素酸ナトリウム※、加熱があります。調理器具等は洗剤などを使用し十分に洗浄した後、次亜塩素酸ナトリウム※（塩素濃度200ppm）で浸すように拭くことでウイルスを失活化でき

ます。また、まな板、包丁、へら、食器、ふきん、タオル等は熱湯（85℃以上）で1分以上の加熱が有効です。

(5) 患者のふん便や吐ぶつを処理する際には注意する。

→ノロウイルスが感染・増殖する部位は小腸と考えられています。したがって、嘔吐症状が強いときには、小腸の内容物とともにウイルスが逆流して、吐ぶつとともに排泄されます。このため、ふん便と同様に吐ぶつ中にも大量のウイルスが存在し感染源となりうるため、その処理には十分注意する必要があります。床等に飛び散った患者の吐ぶつやふん便を処理するときには、使い捨てのガウン（エプロン）、マスクと手袋を着用し汚物中のウイルスが飛び散らないように、ふん便、吐ぶつをペーパータオル等で静かに拭き取ります。拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム※（塩素濃度約200ppm）で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。おむつ等は、速やかに閉じてふん便等を包み込みます。おむつや拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄します。（この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の次亜塩素酸ナトリウム※（塩素濃度約1,000ppm）を入れることが望ましい。）また、ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、吐ぶつやふん便は乾燥しないうちに床等に残らないよう速やかに処理し、処理した後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意しながら十分に換気を行うことが感染防止に重要です。

もっと詳しい事をお知りになりたい方は、厚生労働省のHPをご覧ください。私も昨年末にノロウイルスに感染し大変な思いをしました。予防には努めていたつもりですが・・・冒頭にもあります通り、まずは予防に努めること。残念ながら罹患してしまったら、感染を拡大させないことです。当院でもトイレに消毒薬を配置しております。是非、正しくご活用頂き、予防して頂きますようお願い申し上げます。

院内感染管理委員会：副委員長 岩澤

### 介護保険の相談は

□ お問い合わせ □  
TEL: 042-550-6101



### あきる台病院 ケア・サービス

訪問看護・訪問介護・居宅療養管理指導  
居宅介護支援・通所リハビリ・訪問リハビリ

確かな技術  
快適性  
安心

人間ドック



### あきる台病院 健診センター

皆様の健康を、心・身・社会の観点から多角的に  
チェック・確認し、適切なサービスで支援します

□ お問い合わせ・ご予約はこちらまで □

TEL: 042-559-5449/2943 (直通)